

愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議事録（令和7年度第1回）

日時 令和7年5月21日（水）
午前10時から午前11時15分まで
会場 愛知県庁本庁舎 正庁

開会 高等学校教育課主査
教育委員会挨拶 愛知県教育委員会教育長
議長・副議長の選出 議長（飯島委員） 副議長（米津委員）
議長挨拶
副議長挨拶

議長 令和7年度入学者選抜結果等について報告を受けた後に、協議に入りたい。
事務局から入学者選抜の実施結果等の報告をお願いします。

高等学校教育課担当課長（進路・生徒） （資料に基づき令和7年度入学者選抜の実施結果等を報告）

議長 事務局から報告があった令和7年度入学者選抜の実施結果等について、質問はあるか。

堀委員 2点質問する。
1点目はフレキシブルハイスクールの通信制課程で志願者数が少なかった要因は、各高等学校が基礎学力検査を実施したためと考える。通信制課程は、様々な生徒の状況に合わせるべきであり、中学校で十分に学ぶことができなかった子どもについても門戸を開くべきである。どのような経緯で基礎学力検査を実施したか。
2点目は、旭陵高等学校と刈谷東高等学校の通信制課程の志願者は合わせて600人近くである。この2校のダウンサイジングが十分に進んでいないのではないか。

高等学校教育課担当課長（進路・生徒） 1点目については、昨年度の本協議会議で各高等学校において志願者数が多くても適切に選抜が行えるよう、入学検査の選択肢として基礎学力検査を含めることとした。今春の入学者選抜では、近隣の中学校からの情報により志願者が多くなると予想し、全ての高等学校で基礎学力検査を実施した。次年度の入学者選抜では、今春の志願状況を踏まえ、改めて各高等学校が基礎学力検査の実施の有無を判断すると考えている。

2点目については、旭陵高等学校及び刈谷東高等学校の2校の通信制課程では、志願者数は昨年より128人減少したものの、募集人員も昨年より120人減少したため、結果的に募集人員に対して志願者数が多くなった。一方で、フレキシブルハイスクールの通信制課程は、募集人員より志願者数が少なかった。旭陵高等学校及び刈谷東高等学校の通信制課程とフレキシブルハイスクールの通信制課程の併願ができることについて引き続き周知し、フレキシブルハイスクールの志願者が増えるよう努めたい。

議長

以前から、旭陵高等学校と刈谷東高等学校の通信制課程の志願者数が多いという話は聞いている。フレキシブルハイスクールの通信制課程の魅力をアピールしなければならない。

その他の質問はあるか。

伊藤正委員

フレキシブルハイスクールや中高一貫教育校、夜間中学など新しいタイプの学校は制度としては素晴らしいが、公立高等学校入学者選抜結果をみると、欠員が出ている。高等学校教育課としてどう分析し、どのように対応するか。

高等学校教育課長

全日制課程の欠員数の増加については、志願者数が減少しているのは一般選抜であり、推薦選抜を含めた早期の選抜において志願者数は、ほぼ横ばいであることから、全日制課程においても、早い時期に進路を決定したい志願者が増えていると分析している。

欠員数が多いことへの対応は、生徒のニーズを踏まえ、変化していく社会の中で、様々なタイプの学校づくりや各高等学校が必要な力を生徒に身につけさせていく取組を充実させること、また、各高等学校の取組がしっかりと中学生に伝わるように発信していくことなど、各高等学校の魅力化、特色化を進めていきたい。

伊藤正委員

小学校や中学校は探究活動を取り入れた授業が始まって久しいが、高等学校の授業では探究活動が取り入れられていないと聞いている。大学入試が変わらないと高等学校の授業が変わらないというあきらめもあるが、高等学校の授業に探究活動を取り入れ、生徒にとって本当に面白い授業にしてほしい。

高等学校教育課長

高等学校でも探究的な学びを充実させるということは大切なことであり、その学びをするからこそ身につけられる力がある

と承知している。愛知県では、あいちラーニング推進事業として、県立高等学校全校で探究的な学びの充実について研究を進めている。指摘いただいた探究的な学びが広がっていくよう今後も努める。

議長

大学入試が変わらなければ高等学校の授業も変わらないというのは真実だと思う。

大学では、入試の多様化が求められている。国立大学では定員の3割は一般入試と異なる学力以外の観点で評価する入試を行う。また、私立大学でも総合型選抜が増加している。

高等学校の入学選抜においても、令和5年度入学選抜で導入された特色選抜は、一般選抜と異なり各高等学校のスクール・ポリシーに基づき選抜する制度である。ここ数年携わってきて、特色選抜については、今すぐにではなくても検討してよりよい制度にしてほしいと考えている。

その他の質問はあるか。

堀委員

3点質問する。

1点目は、推薦選抜と特色選抜の違いについて教えていただきたい。また、特色選抜を実施する高等学校の半数以上が入学検査として基礎学力検査を選択しているが、これは特色選抜として望ましいのか。

2点目は、部活動やクラブチーム等において参加した大会の結果を点数化しているかである。部活動に関する各中学校の在り方に関わってくるため、教えていただきたい。

3点目は、現行の大学区制をやめて、子どもたちが地域の高等学校を選択できるようにするべきと考えるが一般選抜の2校志願は見直さないのか。

高等学校教育課担当課長
(進路・生徒)

1点目については、推薦選抜は、中学校における生徒の活動について校内外の活動も含めて中学校長に推薦してもらう。特色選抜は、高等学校が示しているスクール・ポリシーを踏まえて志願するものであり、校長推薦を必要としない。基礎学力検査を実施する高等学校が多いことについては、今年度初めて特色選抜で合格した者が高等学校を卒業するため、その状況も踏まえ、検討したい。

2点目については、各高等学校での選抜方法は各高等学校長の総合的な判断に任せているので、事務局としては把握していない。

3点目については、学区について定めた群及びグループの制

度をこれまで大きく2回見直している。子どもたちが近隣で2校を選んだり、専門学科も含めて選んだりできるよう改善した。また、2校を志願できることで子どもたちにとっては安心して出願ができる制度になっていると考えている。2校志願については過去に何度も議論しており、今のところ協議することは考えていない。

議長

愛知県の2校志願は今後も続けてもらいたい。令和2年度に開催された愛知県公立高等学校入学者選抜制度の改善に関する検討会議のワーキンググループで2校志願について協議した時の様子からは、2校志願は広く受け入れられており、定着していると感じた。

その他の質問はあるか。

今井委員

ある志願者が受検前に、高等学校のウェブページで希望する部活動があることを確認し、当該高等学校を第一志望にして勉強を頑張り入学した。しかし、実際に当該高等学校に入学したら、希望する部活動が廃部になっていたということを聞いた。部活動は中学生にとって、高等学校を選択する上で重要な選択肢の一つである。部活動の有無、顧問が誰になるか等、変更も含めて早めに情報を伝えてほしい。

高等学校教育課担当課長
(進路・生徒)

志願者にお示しでできることは早めに中学生に伝えるよう、各高等学校に伝える。

議長

それでは、入学者選抜の実施結果等についての議事はここまですし、本年度の諮問事項について、事務局から説明をお願いする。

高等学校教育課長

(本年度の諮問事項について説明)

高等学校教育課担当課長
(進路・生徒)

(資料に基づき諮問事項にかかる資料について説明)

伊藤正委員

諮問事項についての配付資料に、「愛知県公立高等学校入学者選抜方法の改善を図るため、下記の事項について諮問いたします。」とあるが、「改善」は何を意味しているのか。中学校としては、受検者が少しでも有利になるよう、なるべく多くのことを調査書情報として登録している。高等学校として不要であるならば登録事項を減らせばよい。中学校、高等学校のそれ

それぞれの立場によって「改善」の意味が変わるのではないか。

高等学校教育課長

「改善」とは、中学校、高等学校の双方にとって「よりよい入学者選抜制度にしていく」という意味である。調査書情報は入学者選抜に使うものであり、登録する項目は選抜において真に選抜に必要な情報のみとすることが求められている。各項目が入学者選抜で使用するものとして適切なものであるかを、本協議会議で改めて検討していただきたい。

議長

他に質問はあるか。

加藤広委員

外国人生徒等選抜の志願者数が増加している高等学校がある。このことについて、県教育委員会はどのように分析しているか。

高等学校教育課担当課長
(進路・生徒)

大手製造業が集積している地域では、就労希望者とともに、その子女も移住してくる状況がある。県内においては、名古屋市・豊橋市・豊田市などでコロナ以降、年々外国人居留者が増えているため、特定の学校で志願者が増加していると考えている。

山脇委員

外国人生徒等選抜の実施校では、外国人生徒支援員の配置が充実している。実際に、当該の高等学校で学んだ生徒たちが、良い評価を後輩に伝えていくことで、学校の評価が高くなっていると考えている。

議長

他に質問はあるか。

伊藤克委員

外国人生徒等選抜の実施校において、第2次選抜を実施した高等学校はあるか。

高等学校教育課担当課長
(進路・生徒)

外国人生徒等選抜実施校のうち、第2次選抜を実施した学校は、12校中、小牧高等学校、東浦高等学校、衣台高等学校、御津あおば高等学校、豊川工科高等学校、中川青和高等学校の6校である。

議長

ここから協議とする。

林泰委員

子どもたちを取り巻く環境は大きく変化する中で、様々な問題を抱えている生徒がおり、不登校の生徒も増えている。その

ため、調査書情報の「出欠の記録」をなくすことは、中学生の不安を少しでも軽減することにつながるため、よいと考える。しかし、「出欠の記録」がなくなると、安易に欠席する生徒が増えるおそれもあるため、慎重に議論を重ねて検討してもらいたい。

議長

他に意見はあるか。

牧野委員

「出欠の記録」をなくすことは賛成である。現状では、「欠席に関する自己申告」や「長期欠席者等選抜申請」を承認する際に、「出欠の記録」とは別に欠席等の日数が登録されるので、「出欠の記録」がなくても問題はない。しかしながら、「出欠の記録」は、子どもたちを迎えるための重要な情報の1つである。4月の入学に向けて準備するためできるだけ早く知りたい情報である。合格後、中学校からの引継資料は、小規模な中学校の場合は合格発表後数日で届くが、大規模な中学校だと入学式以降に届くこともある。

議長

他に質問はあるか。

鈴木み委員

外国人生徒等選抜の定員を「募集人員の5%程度まで」としたのはなぜか。また、今後も「5%程度」という割合を続けるのか。

高等学校教育課担当課長
(進路・生徒)

外国人生徒等選抜を始めた平成14年度入学者選抜では「若干名」としていた。しかし、若干名では合格しづらい印象を与えるので、令和2年度入学者選抜から、当時の志願者数を参考に募集人員を「5%程度まで」とした。

定員枠を変更してから5年が経過し、学校を取り巻く状況が変化してきている中で、定員枠を拡大するかを協議いただきたい。

議長

他に意見はあるか。

堀委員

外国人生徒等選抜の定員枠を広げることには大きく賛成である。現在学習支援員、日本語教育の支援員を派遣していただいているが、感謝しているが、支援員の数不足している。外国人生徒等選抜を受検して入学する生徒が増えた場合、支援員が不足する可能性がある。支援員が補充されること及び、取り出し授業が十分できるよう教員の定数の増加がなければ、高等

学校の方もパンクしてしまう。そういったことも踏まえて検討していただきたい。

議長 他に意見はあるか。

伊藤克委員 高等学校の欠員が多いこと、また、外国人の子どもたちが増えていることから、募集人員に対する外国人生徒等選抜の定員の割合を増加させることについては、賛成である。あま地区でも、学校では多言語の話者がおり、支援員の確保が大変負担である。支援員の確保についても、併せて進めてほしい。

議長 今後は、諮問事項について、さらに専門的な研究協議を行う必要があるため、専門員会を設置し、専門員会に付託することとしたい。よろしいか。

(異議なし)

議長 事務局で専門員の案があればお願いしたい。

高等学校教育課長 (議長の指示により専門員の名簿を配付し、構成等について若干の説明)

議長 専門員の案について、いかがか。

(異議なし)

議長 異議がないので、案に示された専門員の方々に、諮問事項の協議をお願いする。なお、専門員会については、入試制度の見直しに関する内容を協議するため、本協議会議の開催要項第8により非公開で開催したいが、よいか。

(異議なし)

議長 熱心な協議に感謝する。本日の協議はこれまでとしたい。

閉会の挨拶
閉会 愛知県教育委員会教育長
高等学校教育課主査